

## タミフルドライシロップ3%

### 【この薬は？】

販売名	タミフルドライシロップ3% TAMIFLU Dry Syrup 3%
一般名	オセルタミビルリン酸塩 Oseltamivir Phosphate
含有量 (1g中)	39.4mg (オセルタミビルとして30mg)

### 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

### 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗インフルエンザウイルス剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬はA型およびB型インフルエンザウイルスの増殖を抑えることでインフルエンザの症状を緩和します。また、インフルエンザウイルス感染を予防します。
- ・次の目的で処方されます。

#### ○A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防

- ・この薬を治療に用いる場合は、A型またはB型インフルエンザウイルス感染症と診断された患者さんのみが対象となります。
- ・この薬を予防に用いる場合は、原則として、インフルエンザウイルス感染症を発症している患者さんの同居家族または共同生活者である次の人が対象となります。
  - ・高齢の人（65歳以上）
  - ・慢性呼吸器疾患または慢性心疾患の人

- ・代謝性疾患（糖尿病など）の人
- ・腎臓に障害のある人
- ・この薬は、インフルエンザウイルスのうちA型またはB型以外の型のインフルエンザウイルスには効果がありません。
- ・この薬は、細菌感染症には効果がありません。
- ・この薬を治療に用いる場合は、インフルエンザ様症状があらわれてから2日以内に使用が開始されます。
- ・この薬を予防に用いる場合は、インフルエンザウイルス感染症の患者さんに接触してから2日以内に使用が開始されます。
- ・この薬は、

#### 〔治療に用いる場合〕

体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

#### 〔予防に用いる場合〕

飲み続けている期間のみしか効果がありません。指示どおりに飲み続けることが重要です。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- インフルエンザウイルス感染症の予防の基本はワクチンによる予防です。この薬の予防使用は、ワクチンによる予防に置き換わるものではありません。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・過去にタミフルに含まれる成分で過敏症のあった人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
  - ・腎臓に高度の障害がある人
  - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
  - ・授乳している人
- 抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無又は種類にかかわらず、インフルエンザにかかった時は、異常行動を発現した例が報告されています。異常行動による転落等の万が一の事故を防止するために、患者さんや家族の方は以下の点について理解できるまで十分に説明を受けてください。
  - ・異常行動（急に走り出す、徘徊する等）の発現のおそれがあること。
  - ・自宅において療養を行う場合、少なくとも発熱から2日間、保護者の方は転落等の事故に対する防止対策を行ってください。
 転落等の事故に至るおそれのある重度の異常行動については、就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多いこと、発熱から2日間以内に発現することが多いこと、が知られています。
- この薬には併用を注意すべき薬やワクチンがあります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

### ●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

腎臓に障害のある人では減量されることがあります。

### 〔治療に用いる場合〕

- ・この薬は、インフルエンザ様症状があらわれてから2日以内に使用が開始されます。症状があらわれてから48時間以降に使用しても効果が期待できません。
- ・通常、飲む量および回数は、次のとおりです。

	成人	幼小児	新生児、乳児
一回量	2.5g	体重1kgあたり 66.7mg (1回の最高量は2.5g)	体重1kgあたり 100mg
飲む回数	1日2回	1日2回	1日2回
飲む期間	5日間	5日間	5日間

### 〔予防に用いる場合〕

- ・この薬は、インフルエンザウイルス感染症の患者さんに接触後2日以内に使用が開始されます。症状があらわれてから48時間以降に使用しても効果が期待できません。また、予防効果は、この薬を飲み続けている期間のみ持続します。
- ・通常、飲む量および回数は、次のとおりです。

	成人	幼小児
一回量	2.5g	体重1kgあたり66.7mg (1回の最高量は2.5g)
飲む回数	1日1回	1日1回
飲む期間	7～10日間	10日間

#### ●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯に1回量ずつ混ぜ、混ぜたら放置せずすぐに飲んでください。

#### ●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次の通常飲む時間が近い場合は、1回分をとばして次の時間に1回分飲んでください。

#### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

嘔吐（おうと）、傾眠（眠気でぼんやりする）、浮動性めまい（ふどうせいめまい）などが報告されています。このような症状があらわれた場合は、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

### 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・患者さんや家族の方は、血便、吐血、不正子宮出血などの出血症状があらわれることがあることについて説明を受けてください。また、これらの症状があらわれた場合には医師に連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬

を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白(そうはく)、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しい
肺炎 はいえん	発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
皮膚粘膜眼症候群(スティーブンス・ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん(スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
中毒性表皮壊死融解症(TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう(テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
白血球減少 はつけっきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
精神・神経症状(意識障害、譫妄、幻覚、妄想、痙攣等) せいしん・しんけいしょうじょう(いしきしょうがい、せんもう、げんかく、もうそう、けいれんとう)	意識の低下、意識の消失、軽度の意識混濁、興奮状態、実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない、顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にボーっとする、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
異常行動 いじょうこうどう	異常行動、普段と違うとつぴな行動をとる、急に走り出す、徘徊する

出血性大腸炎 しゅつけつせいだいちょうえん	激しい腹痛、血が混ざった下痢、発熱、ふらつき、息切れ
虚血性大腸炎 きょけつせいだいちょうえん	急激な腹痛、血が混ざった下痢

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、体がかゆくなる、急激に体重が増える、疲れやすい、体がだるい、力が入らない、食欲不振、むくみ、突然の高熱、寒気、出血が止まりにくい、顔や手足の筋肉がぴくつく
頭部	めまい、意識の消失、急な意識の低下、意識の低下、軽度の意識混濁、興奮状態、実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない、一時的にボーっとする、異常行動、普段と違うとつぴな行動をとる、急に走り出す、徘徊する
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	喉のかゆみ、咳、痰、血を吐く、吐き気、唇や口内のただれ、喉の痛み、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血
胸部	動悸、息苦しい、息切れ
腹部	お腹が張る、激しい腹痛、急激な腹痛
手・足	手足が冷たくなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、あおあざができる
便	便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)、血が混ざった下痢
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る

## 【この薬の形は？】

形状	顆粒または塊のある顆粒。 懸濁すると、均一な懸濁液となる。
色	白色～淡黄色

## 【この薬に含まれているのは？】

有効成分	オセルタミビルリン酸塩
添加剤	エリスリトール、ポビドン、トウモロコシデンプン、アセスルフアムカリウム、サッカリンナトリウム水和物、軽質無水ケイ

	酸、シヨ糖脂肪酸エステル、デキストリン、中鎖脂肪酸トリグリセリド、香料
--	-------------------------------------

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：中外製薬株式会社

(<https://www.chugai-pharm.co.jp/>)

メディカルインフォメーション部

電話：0120-049-699

受付時間：9時～17時30分

（土、日、祝日、会社休日を除く）